

詩吟教本(続天)

- | | |
|-----------------------------------|--------------------|
| 2、秋尽く | 館 柳湾 (たて りゅうわん) |
| 3、阿山禹嶺 | 頼 山陽 (らい さんよう) |
| 4、吾妻橋畔を過ぎて感有り | 藤田東湖 (ふじた とうこ) |
| 5、阿蘇山 | 安達漢城 (あだち かんじょう) |
| 6、哀悼の詞 | 本宮三香 (もとみや さんこう) |
| 7、行宮 | 元 稹 (げんしん) |
| 8、暁に順城門を出で何太虚を懐う有り | 掲 傒斯 (けい けいし) |
| 9、石鎚山 | 海量法師 (かいりょう ほうし) |
| 10、潮来 | 大槻磐溪 (おおつき ばんけい) |
| 11、磯浜望洋楼に登る | 三島中洲 (みしま ちゅうしゅう) |
| 12、一声の仁 | 西郷南洲 (さいごう なんしゅう) |
| 13、飯森山に白虎隊を弔う | 白鳥省吾 (しらとり しょうご) |
| 14、石狩川 | 佐々木岳甫 (ささき かくほ) |
| 15、渭水を見て秦川を思う | 岑 参 (しんしん) |
| 16、殷亮に贈る | 戴 叔倫 (たい しゅくりん) |
| 17、雨中の海棠 | 尾池桐陽 (おいけ とうよう) |
| 18、海を望む | 藤井竹外 (ふじい ちくがい) |
| 19、宇文六を送る | 常 建 (じょうけん) |
| 20、絵の島 | 菅 茶山 (かん ちゃざん) |
| 21、応制天の橋立 | 积 希世 (しゃく きせい) |
| 22、桶狭間を過ぐ | 大田錦城 (おおた きんじょう) |
| 23、桜花 | 草場船山 (くさば せんざん) |
| 24、奥羽道中 | 榎本武揚 (えのもと たけあき) |
| 25、王昌齡が龍標の尉に左遷せらるるを 聞き遥かに此の寄有り | 李 白 (りはく) |
| 26、王昭君 | 白 居易 (はく きょい) |
| 27、王昭君 | 李 白 (りはく) |
| 28、客中 | 一休宗純 (いつきゅう そうじゅん) |
| 29、元旦に筆を試す | 山鹿素行 (やまが そこう) |
| 30、鹿児島客中の作 | 亀井南冥 (かめい なんめい) |
| 31、客舎の壁に題す | 雲井達雄 (くもい たつお) |
| 32、華道 | 松口月城 (まつぐち げつじょう) |
| 33、刈干切唄 | 松口月城 (まつぐち けつじょう) |
| 34、岳精流吟魂碑除幕式を祝す | 武田静山 (たけだ せいざん) |

| | |
|-----------------------|-------------------|
| 35、客中の作 | 李 白 (りはく) |
| 36、関山の月 | 儲 光羲 (ちょ こうぎ) |
| 37、重ねて裴郎中の吉州に貶せらるるを送る | 劉 長卿 (りゅう ちょうけい) |
| 38、雁を聞く | 韋 応物 (い おうぶつ) |
| 39、下邳莊南の桃花 | 白 居易 (はく きょい) |
| 40、角を聴いて帰るを思う | 顧 況 (こきょう) |
| 41、漢江 | 杜 牧 (とぼく) |
| 42、花下に酔う | 李 商隠 (り しょういん) |
| 43、夏意 | 蘇 舜欽 (そ しゅんきん) |
| 44、画眉鳥 | 欧陽 修 (おうよう しゅう) |
| 45、夏夜涼を追う | 楊 万里 (よう ばんり) |
| 46、家書を得たり | 高 啓 (こうけい) |
| 47、龜山宮中の作 | 大久保甲東 (おおくぼ こうとう) |
| 48、金州城を過ぎ乃木将軍を憶う | 本宮三香 (もとみや さんこう) |
| 49、曉鶯 | 柳川滄洲 (やながわ そうしゅう) |
| 50、銀魂碑 | 武田静山 (たけだ せいざん) |
| 51、帰雁 | 錢 起 (せんき) |
| 52、玉関にて長安の李主簿に寄す | 岑 参 (しんしん) |
| 53、帰雁 | 杜 甫 (とほふ) |
| 54、綺岫宮 | 王 建 (おうけん) |
| 55、偶作 | 良 寛 (りょうかん) |
| 56、雲 | 大窪詩仏 (おおくぼ しぶつ) |
| 57、隈川雑詠 (その一) | 広瀬淡窓 (ひろせ たんそう) |
| 58、隈川雑詠 (その二) | 広瀬淡窓 (ひろせ たんそう) |
| 59、偶成 | 横井小楠 (よこい しょうなん) |
| 60、偶作 | 横井小楠 (よこい しょうなん) |
| 61、偶成 | 大鳥圭介 (おおとり けいすけ) |
| 62、熊本城 | 原 雨城 (はら うじょう) |
| 63、九月九日山東の兄弟を憶う | 王 維 (おうい) |
| 64、軍城早秋 | 嚴 武 (げんぶ) |
| 65、月夜禁垣外を歩す | 柴野栗山 (しばの りつざん) |
| 66、月下独酌 | 菅 茶山 (かん ちゃざん) |
| 67、桂林莊雑詠諸生に示す (その三) | 広瀬淡窓 (ひろせ たんそう) |
| 68、桂林莊雑詠諸生に示す (その四) | 広瀬淡窓 (ひろせ たんそう) |
| 69、結婚式 | 安達漢城 (あだち かんじょう) |
| 70、結婚式 | 檜垣賀陽 (ひがき がよう) |

| | |
|------------------------|-------------------|
| 71、結婚式 | 松口月城 (まつぐち げつじょう) |
| 72、建徳江に宿る | 孟 浩然 (もう こうねん) |
| 73、閨怨 | 王 昌齡 (おう しょうれい) |
| 74、京兆の韋参軍が東陽に量移せらるるを見る | 李 白 (りはく) |
| 75、京に入る使いに逢う | 岑 参 (しんしん) |
| 76、京師にて家書を得たり | 袁 凱 (えんがい) |
| 77、江上の舟 | 嵯峨天皇 (さがてんのう) |
| 78、甲戌の冬舟中に月を見て感有り | 中江藤樹 (なかえ とうじゅ) |
| 79、古稀偶感 | 宮崎東明 (みやざき とうめい) |
| 80、古寺訪梅 | 渡辺郷岳 (わたなべ ごうがく) |
| 81、古城 | 瓜生田山桜 (うりうだ さんおう) |
| 82、江畔独歩花を尋ぬ | 杜 甫 (とほ) |
| 83、江南にて李龜年に逢う | 杜 甫 (とほ) |
| 84、呉城覽古 | 陳 羽 (ちんう) |
| 85、胡渭州 | 張 祜 (ちょうこ) |
| 86、江楼にて感を書す | 趙 嘏 (ちょうか) |
| 87、湖上に飲す | 蘇 軾 (そしよく) |
| 88、江村晚眺 | 戴 復古 (たい ふくこ) |
| 89、江南の故人に寄す | 家 鉉翁 (か げんおう) |
| 90、山居 | 寂室元光 (じゃくしつ げんこう) |
| 91、山居 | 藤原惺窩 (ふじわら せいかに) |
| 92、山居 | 赤田臥牛 (あかだ がぎゅう) |
| 93、西教寺を問う | 広瀬淡窓 (ひろせ たんそう) |
| 94、山房の夜雨 | 木下犀潭 (きのした さいたん) |
| 95、鮫島生の東行を送る | 横井小楠 (よこい しょうなん) |
| 96、山路楓を観る | 夏目漱石 (なつめ そうせき) |
| 97、山寺 | 本宮三香 (もとみや さんこう) |
| 98、雑詩 | 王 維 (おうい) |
| 99、山居雑詩 | 元 好問 (げん こうもん) |
| 100、塞上にて笛を吹くを聞く | 高 適 (こうせき) |
| 101、山房春事 | 岑 参 (しんしん) |
| 102、塞下の曲 | 常 建 (じょうけん) |
| 103、三日李九の荘を尋ぬ | 常 建 (じょうけん) |
| 104、三閭廟 | 戴 叔倫 (たい しゅくりん) |
| 105、酒を勧む | 于 武陵 (う ぶりょう) |
| 106、山中の春暁鳥声を聞く | 高 啓 (こうけい) |

| | |
|-----------------------|-------------------|
| 107、辞世 | 上杉謙信 (うえすぎ けんしん) |
| 108、秋夕琵琶湖に泛ぶ | 梁田蛻巖 (やなだ ぜいがん) |
| 109、子規 | 良 寛 (りょうかん) |
| 110、秋江 | 大田錦城 (おおた きんじょう) |
| 111、春寒 | 大窪詩仏 (おおくぼ しぶつ) |
| 112、春雨に筆庵に到る | 広瀬旭荘 (ひろせ きょくそう) |
| 113、社友小集 | 福沢諭吉 (ふくざわ ゆきち) |
| 114、書懷 | 篠原国幹 (しのはら くにもと) |
| 115、焦心録後に題す | 高杉晋作 (たかすぎ しんさく) |
| 116、時事偶感 | 杉浦重剛 (すぎうら しげたけ) |
| 117、春日家に還る | 正岡子規 (まさおか しき) |
| 118、自画に題す | 夏目漱石 (なつめ そうせき) |
| 119、秋山に僧を訪ぬ | 本宮三香 (もとみや さんこう) |
| 120、新年 | 松口月城 (まつぐち げつじょう) |
| 121、詩道 | 松口月城 (まつぐち げつじょう) |
| 122、七歩の詩 | 曹 植 (そうしょく) |
| 123、四時 | 陶 潜 (とうせん) |
| 124、湘江を渡る | 杜 審言 (と しんげん) |
| 125、従軍行 (その一) | 王 昌齡 (おう しょうれい) |
| 126、従軍行 (その二) | 王 昌齡 (おう しょうれい) |
| 127、史郎中欽と黄鶴楼上に笛を吹くを聞く | 李 白 (りはく) |
| 128、酒泉太守の席上酔後の作 | 岑 参 (しんしん) |
| 129、春思 | 賈 至 (かし) |
| 130、相を罷めて作る | 李 適之 (り てきし) |
| 131、湘南即事 | 戴 叔倫 (たい しゅくりん) |
| 132、秋夜丘二十二員外に寄す | 韋 応物 (い おうぶつ) |
| 133、滁州西澗 | 韋 応物 (い おうぶつ) |
| 134、秋日 | 耿 漳 (こうい) |
| 135、秋思 | 張 籍 (ちょうせき) |
| 136、春風 | 白 居易 (はく きょい) |
| 137、春興 | 武 元衡 (ぶ げんこう) |
| 138、春日偶作 | 武 元衡 (ぶ げんこう) |
| 139、城東の早春 | 楊 巨源 (よう きょげん) |
| 140、自詠 | 呂 洞賓 (りょ どうひん) |
| 141、初夏即事 | 王 安石 (おう あんせき) |
| 142、初冬の作劉景文に贈る | 蘇 軾 (そしょく) |

| | |
|------------------|----------------------|
| 143、小園 | 陸 游 (りくゆう) |
| 144、書を観て感有り | 朱 熹 (しゅき) |
| 145、襄邑道中 | 陳 与義 (ちん よぎ) |
| 146、春雁 | 王 恭 (おう きょう) |
| 147、暑を山園に避く | 王 世貞 (おう せいてい) |
| 148、従軍行 | 乾隆 帝 (けんりゅうてい) |
| 149、常德を去る舟中感じて賦す | 秋 瑾 (しゅうきん) |
| 150、水前寺成趣園 | 落合素堂 (おちあい そどう) |
| 151、睡覺偶吟 | 白 居易 (はく きょい) |
| 152、千日紅を詠ず | 梁田蛻巖 (やなだ ぜいがん) |
| 153、先妣十七回忌 | 菅 茶山 (かん ちゃざん) |
| 154、雪中の雑詩 | 市河寛齋 (いちかわ かんさい) |
| 155、絶命の詞 | 黒沢忠三郎 (くろさわ ちゅうざぶろう) |
| 156、西南の役陣中の作 | 佐々友房 (さつき ともふさ) |
| 157、西宮秋怨 | 王 昌齡 (おう しょうれい) |
| 158、清平調詞 (その一) | 李 白 (りはく) |
| 159、清平調詞 (その二) | 李 白 (りはく) |
| 160、清平調詞 (その三) | 李 白 (りはく) |
| 161、絶句 (両箇の黄鸝) | 杜 甫 (とほ) |
| 162、西亭の春望 | 賈 至 (かし) |
| 163、青門の柳 | 白 居易 (はく きょい) |
| 164、禅院に題す | 杜 牧 (とぼく) |
| 165、昔遊を念う | 杜 牧 (とぼく) |
| 166、雪梅 | 方 岳 (ほうがく) |
| 167、草庵雪夜の作 | 良 寛 (りょうかん) |
| 168、村夜 | 白 居易 (はく きょい) |
| 169、送別 | 韋 荘 (いそう) |
| 170、武田信玄 | 増田岳陽 (ますだ がくよう) |
| 171、丹頂之舞 | 佐々木岳甫 (ささき がくほ) |
| 172、探梅 | 楊 万里 (よう ばんり) |
| 173、晁卿衡を哭す | 李 白 (りはく) |
| 174、竹枝詞 | 白 居易 (はく きょい) |
| 175、中秋月を望む | 王 建 (おうけん) |
| 176、早に深川を発す | 平野金華 (ひらの きんか) |
| 177、筑波山の絶頂に登る | 安積良齋 (あさか ごんさい) |
| 178、月に対して感有り | 王 守仁 (おう しゅじん) |

- 179、田園雑興
180、同盜に問う
181、同前に和し奉る
182、洞庭湖に遊ぶ
183、董大に別る
184、東欄の梨花
185、冬初の出遊
186、東城
187、夏の川
188、夏の夜
189、名古屋城
190、楠公の銅像を仰ぐ
191、南楼の望
192、何湖にて夜歌者を聞く
193、日本刀
194、八月十五夜月前に旧を語る
195、春の花を尋ぬ
196、白雲山に登る
197、母を憶う
198、灞橋
199、万里の長城
200、初夢
201、母を憶う
202、八陣の図
203、初めて香山院に入って月に対す
204、白鷺
205、梅花
206、晩春
207、彦山
208、独り敬亭山に座す
209、舟八島を過ぐ
210、武関に宿る
211、壁に題す
212、汴河の曲
213、芳山懷古
214、某楼に飲す
- 范 成大 (はん せいだい)
日柳燕石 (くさなぎ えんせき)
崔 惠童 (さい けいどう)
李 白 (りはく)
高 適 (こうせき)
蘇 軾 (そしよく)
陸 游 (りくゆう)
趙 孟頴 (ちょう もうふ)
江村北海 (えむら ほっかい)
江馬細香 (えま さいこう)
松口月城 (まつぐち げつじょう)
佐々木孝吾 (ささき こうご)
盧 僎 (ろせん)
朱 彝尊 (しゅ いそん)
大鳥圭介 (おおとり けいすけ)
菅原道真 (すがわらの みちざね)
菅 三品 (かん さんぼん)
太宰春台 (だざい しゅんだい)
網谷一才 (あみたに いっさい)
竹添井井 (たけぞえ せいせい)
田辺碧堂 (たなべ へきどう)
本宮三香 (もとみや さんこう)
頼 山陽 (らい さんよう)
杜 甫 (とほ)
白 居易 (はく きょい)
白 居易 (はく きょい)
王 安石 (おう あんせき)
戴 復古 (たい ふくこ)
広瀬淡窓 (ひろせ たんそう)
李 白 (りはく)
正岡子規 (まさおか しき)
李 涉 (りしょう)
寂室元光 (じゃくしつ げんこう)
李 益 (りえき)
鱸 松塘 (すずき しょうとう)
伊藤博文 (いとう ひろぶみ)

| | |
|--|--------------------|
| 215、望郷の詩 | 晁 衡 (ちようこう) |
| 216、牡丹を賞す | 劉 禹錫 (りゅう うしゃく) |
| 217、暮立 | 白 居易 (はく きょい) |
| 218、暮江吟 | 白 居易 (はく きょい) |
| 219、松前城下の作 | 長尾秋水 (ながお しゅうすい) |
| 220、松山城 | 小原六六庵 (おはら ろくろくあん) |
| 221、毬藻に題す | 稲本素風 (いなもと そふう) |
| 222、松 | 宮崎東明 (みやざき とうめい) |
| 223、復愁う | 杜 甫 (とほ) |
| 224、自ら遣る | 李 白 (りはく) |
| 225、無題 | 阿倍仲麻呂 (あべのなかまろ) |
| 226、孟母三遷 | 松口月城 (まつぐち げつじょう) |
| 227、桃太郎 | 松口月城 (まつぐち げつじょう) |
| 228、孟城坳 | 裴 廸 (はいてき) |
| 229、問梅閣 | 高 啓 (こうけい) |
| 230、夜雨 | 良 寛 (りょうかん) |
| 231、耶馬溪 | 久保天隨 (くぼ てんずい) |
| 232、屋島懷古 | 磯部草丘 (いそべ そうきゅう) |
| 233、夜雪 | 白 居易 (はく きょい) |
| 234、夜直 | 王 安石 (おう あんせき) |
| 235、芳野懷古 | 正墻適処 (しょうがき てきしよ) |
| 236、横山岳精先生藍綬褒章受章を祝す | 武田静山 (たけだ せいざん) |
| 237、楊柳枝詞 | 劉 禹錫 (りゅう うしゃく) |
| 238、夜子規を聞く | 王 建 (おうけん) |
| 239、酔うて祝融峰を下る | 朱 熹 (しゅき) |
| 240、夜天地に宿し月下に雷を聞く次いで早に大雨を知る 王守仁 (おうしゅじん) | |
| 241、嵐山に遊ぶ | 頼 山陽 (らい さんよう) |
| 242、落花 | 徳富蘇峰 (とくとみ そほう) |
| 243、洛陽にて袁拾遺を訪うて遇わず | 孟 浩然 (もう こうねん) |
| 244、楽遊原 | 李 商隠 (り しょういん) |
| 245、立秋の雨 | 徳川光圀 (とくがわ みつくに) |
| 246、涼を尋ねて山寺に到る | 正岡子規 (まさおか しき) |
| 247、竜虎 | 大野恵造 (おおの けいぞう) |
| 248、梁六を送る | 張 説 (ちようえつ) |
| 249、涼州歌第二疊 | 張 子容 (ちよう しょう) |
| 250、李侍郎の常州に赴くを送る | 賈 至 (かし) |

251、柳州の二月
252、呂卿を送る

柳 宗元 (りゅう そうげん)
高 啓 (こうけい)

短歌

254、
安倍仲麻呂

天の原

255、
佐々木信綱

ゆく秋の

256、
吉井 勇

夏は来ぬ

257、
持統天皇御製
昭和天皇御製

春過ぎて
戦いの

258、
昭和天皇御製

外国の
山百合の

259、
志貴の皇子
遣唐使随員の母

石ばしる
旅人の

260、
山部の赤人
小野の老の朝臣

若の浦に
青丹よし

261、
藤原の敏行
紀の友則

秋来ぬと
ひさかたの

262、
冷泉為守
能因

遠くなり
都をば

263、
源の兼昌

あらし吹く
淡路島

264、
藤原の顕輔
平の忠度

秋風に
行きくれて

265、
西行

心なき

源の実朝

266、

親鸞

楠 正行

267、

太田道灌

268、

細川伽羅沙

浅野長矩

269、

大石良雄

良寛

270、

良寛

月照

271、

吉田松陰

佐久良東雄

272

八田知紀

正岡子規

273、

正岡子規

乃木希典

274、

石川啄木

275、

276

若山牧水

277、

大海の

あすありと

かえらじと

我が庵は

露おかぬ

散りぬべき

風さそう

あら楽し

いざここに

何事も

大君の

かくすれば

朝日影

よしの山

くれなゐの

いちはつの

うつし夜を

かにかくに

神のごと

函館の

たわむれに

しらじらと

かたはらに

いざ行かむ

与謝野鉄幹

278、

与謝野晶子

279、

木村岳風

积 迢空

280、

斉藤茂吉

吉井 勇

281、

吉井 勇

佐々木信綱

282、

大江一二三

早川敏

283、

大江 徹

南原 繁

284、

大戸正彦

近藤宏二

俳句

286、

芭蕉

287、

芭蕉

288、

芭蕉

289、

芭蕉

野に生ふる

鎌倉や

川ひとすち

死して猶

葛の花

最上川

かにかくに

不知火の

越の国

靖国の

わが弁当

一食を

一時間

赤松の

母逝きて

さみだれを

ほろほろと

花の雲

春なれや

あらとふと

五月雨の

塚も動け

雲の峰

嵐雪
其角

290、
支考
鬼貫
蕪村

蓼太
291、
一茶

292、
良寛
子規
子規
漱石
碧梧桐

293、
山頭火
山頭火
山頭火
匝浪
子規

294、
万太郎
井泉水
秋桜子
秋桜子
瞿麦

旅に病んで
布団着て
手折らるる
夕涼み

歌書よりも
行水の
易水に
をちこちに
世の中は

めでたさも
かたつむり
うたたねも
やれ打つな
信濃では

裏を見せ
行く春を
松山や
荒滝や
寒月に

夕立が
越えてゆく
焼き捨てて
木曾路ゆく
さらさらと

神田川
舟に落つる
鶯や
滝にぬれ
あめつちの

今様

296

あづまの空に

秋のはじめに

池の涼しき

297、

朧月夜の

君のよはいは

心一つに

298、

つるのむれいる

匂ふさくらは

冬の夜寒の

299、

風雨を捲いて

猛虎をしのぐ

若き命の

以上

